



桜台小だより



<http://www.sagamihara-sakuradai-e.ed.jp/>

〒252-0321

相模原市南区相模台7-7-1

TEL 042-742-3674

FAX 042-741-7991

学校長 宇田川 真美

令和 3年 9月 30日 10月号



主語と述語がわかる文章で会話を紡ごう。

落ち葉が拡がり、秋がやってきたと感じます。秋といえば読書が最適です。そこで、子どもたちに

「どんな本を読んでいるのか、校内で、出会ったら教えて下さい。」

と、タブレットPCを利用して尋ねてみました。何人かの児童がすぐに対応してくれて『ファンタジー要素が盛りだくさんの本』や『ゲームの世界と共有できる本』など、何冊も紹介してくれました。紹介できる本が心の中にある子どもたちがいてくれてうれしく思いました。しかしながら『出会ったら』ではなく『タブレットPCを通して』の紹介が多く、タブレットPCで尋ねると本物の声が聞けなくなるものだとも学びました。

読む力だけでなく書く力も養えるといわれる読書の重要性はどんな人も知っています。ところが、ゲーム等の普及で読書に時間を費やさない子が全国的に増えていると言われていす。

さて、1学期に行った全国学力・学習状況調査の結果が戻ってきました。毎年、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、生活習慣や学習環境等に関わる調査と、国語・算数(数学)の調査が行われています。

本校の結果でうれしかったのは、全国に比べ『困っている人を助けたい、人の役に立ちたい』と思う児童の比率が高かったことです。その一方で残念だったのは、読んだ内容を基に記述して答える課題を苦手としていたことです。まさに、『読む力・書く力』であり読書の成果が試されやすい課題です。

『毎日、読書をしよう』と、生活を変えることは困難です。でも、せめて文字言語の基になる日常の会話を、日々、大人が気にかけて紡いでいきませんか。

「早く。いいよ。だめ。やめて。やって。

それ。あそこ。」

などの単語のやりとりではなく、

「だれが、いつ、どこで何を、どういう理由でどのようにしたのか。いつから始めていつ終わったのか。」

などと主語や述語に気をつけて問いかけていきたいと思ひます。

本校の子どもたちの強みが『人の役に立つ』だけでなく『言葉で伝える』も加わるように。



本校図書館の一角。児童おすすめの本が・・・。